

農村RMO超基礎編

JTB総合研究所 橋本 惇

本日の流れ

1

農村RMOをざっくり理解する

2

「こんなとき、どうする？」を一緒に考える

3

農村RMOでできることを考える

ちょっとだけ自己紹介…

JTB総合研究所
研究員

あつし
橋本 惇

大学では温泉地と関わりながら、ある農村地域をフィールドに地域づくりを研究。2020年にJTB総合研究所に入社し、農山漁村地域を中心に様々な事業に関わる。
年間100湯の温泉に入ることをライフワークとして、47都道府県・8の国と地域で、986湯を湯破(2026/9/1現在)。

詳しいプロフィールは当社HPをご覧ください➡

農村地域活性化の参考資料



画像の出典: 北陸農政局



画像の出典: 農林水産省

農村RMOをざっくり理解する



- 農村RMOは、農村型地域運営組織のことで、地域運営組織の一形態です。

手引きでの記載内容	説明
(農村地域において)	農村地域の課題に適した組織を目指す
複数の集落の機能を補完して	複数集落で活動する
農用地保全活動や 農業を核とした経済活動と併せて	「農」に関わる活動をする
生活支援等地域コミュニティの維持に 資する取組を行う組織	生活支援や、地域資源活用もする
	地域コミュニティの維持に資することを目指す

- 農村RMOは集落の機能を補完するため、複数集落で活動します。
- [旧]小学校区単位の地域づくりが行われている場合は、範囲を合わせることが効果的です。



市町村



複数集落(地区)

集落



複数集落(市町村でも集落でもなく)だと

- 一定の活動規模になりやすい
(組織を運営する人材や、活動の参加者など)
- 一人ひとりに目が行き届く



さらに

[旧]小学校区の場合...

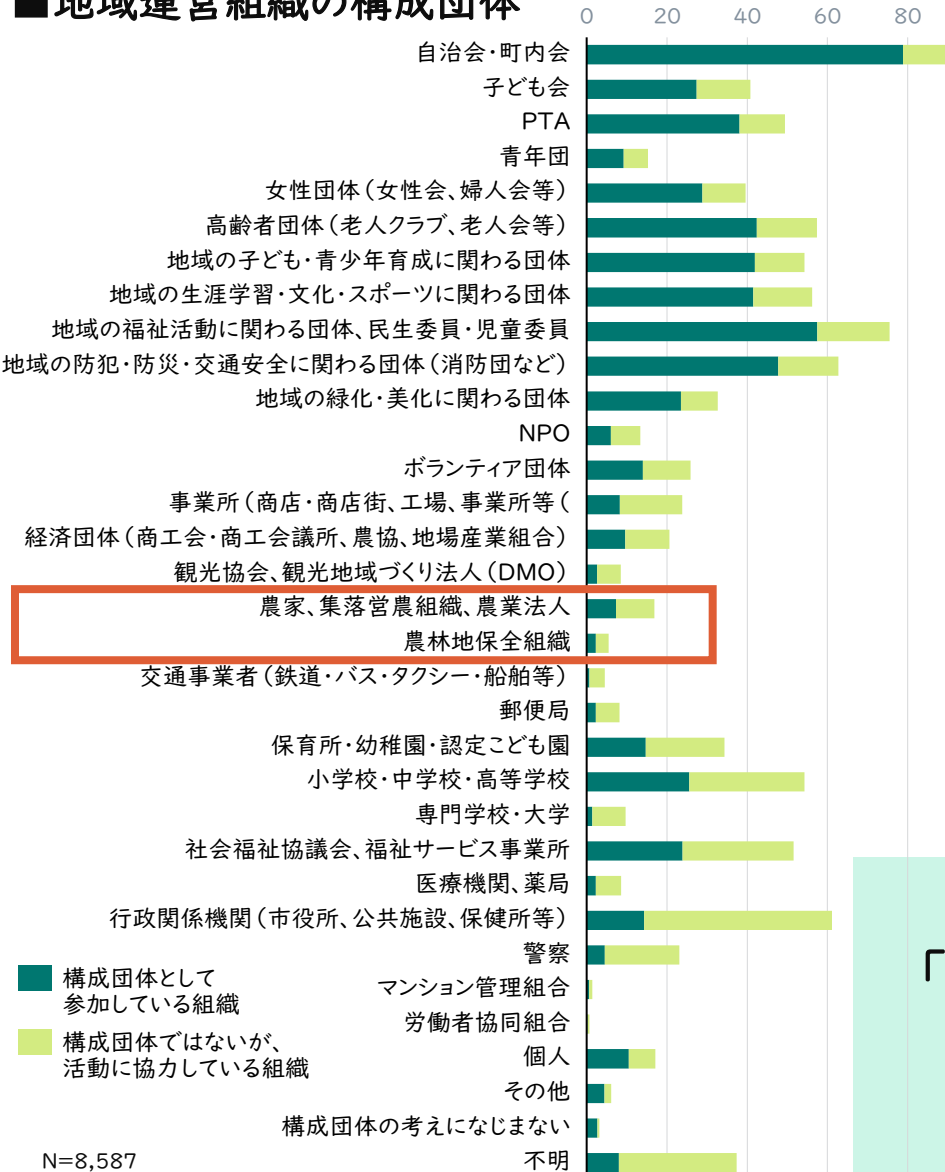
- 既存の地域づくり系団体と連携しやすい
- 活動拠点を得やすい(地区公民館など)
- 地域的にまとまりがある

[旧]小学校区でなければいけない、というわけではないが
地域運営組織がすでにある場合などは、範囲を重ねたほうが効果的

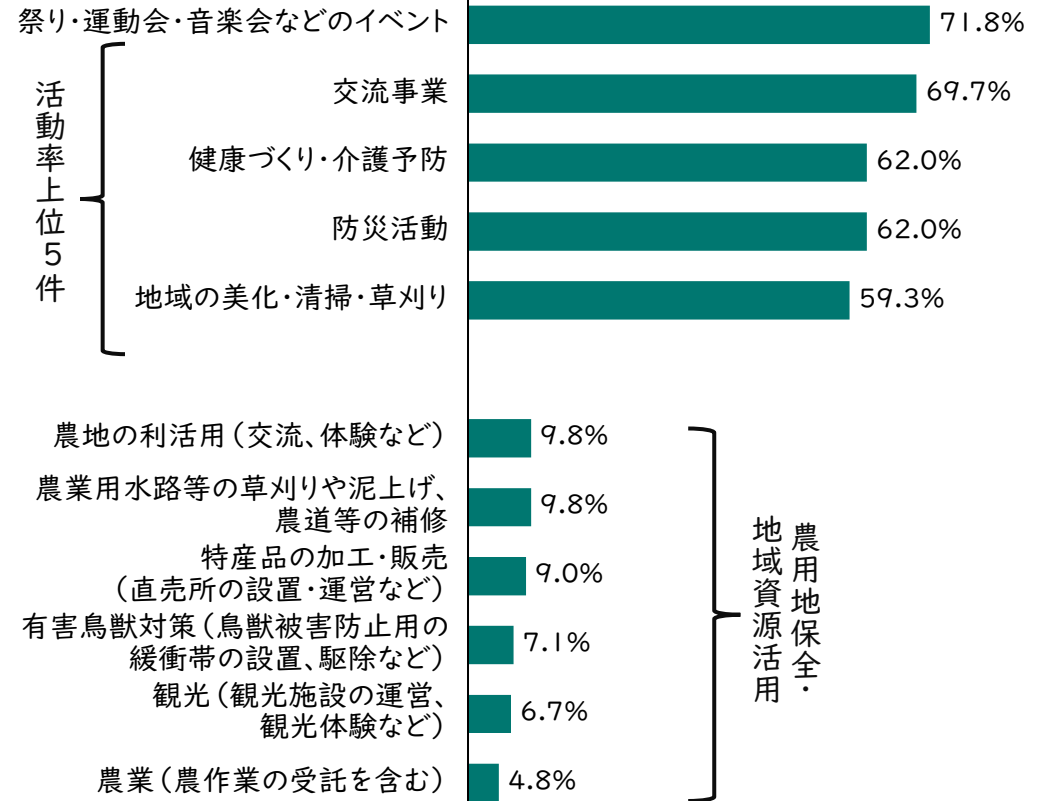
なぜ、「農村型」なのか

手引きp.4

■地域運営組織の構成団体



■活動内容(農業関係)



「地域運営組織」の多くでは
「農」にまつわる活動が行われていない
しかし、農村地域の暮らしでは
「農」の維持が不可欠

- 農村集落で「農」を維持できなくなると、住み続けられなくなるおそれがあります。
- 「農」を維持するために、農家・非農家が協力することが欠かせません。



農業をきっかけ
としたコミュニティ



鳥獣害の増加



鳥獣害対策



景観



災害リスク上昇



景観作物の栽培等、
農地の維持



景観や治安の悪化



放牧等による新たな
活用（粗放的管理）

あなたの地域で、「集落」「地区（複数集落）」にある組織・施設は？

手引きp.58

自治

農用地保全

地域資源活用

生活支援

その他
(市町村など)



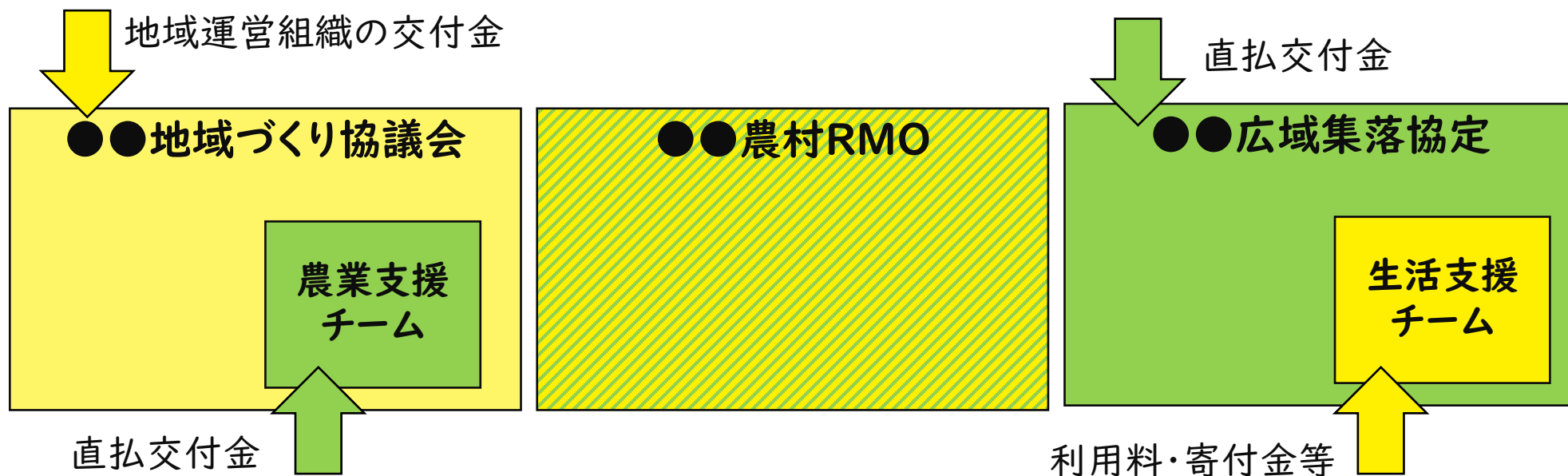
地区
(複数集落)



集落



- 農村RMOという組織を別で作る必要はなく、様々な組織体制がみられます。
- これまでの活動状況に応じて、最も効果的な体制で取り組んでください。

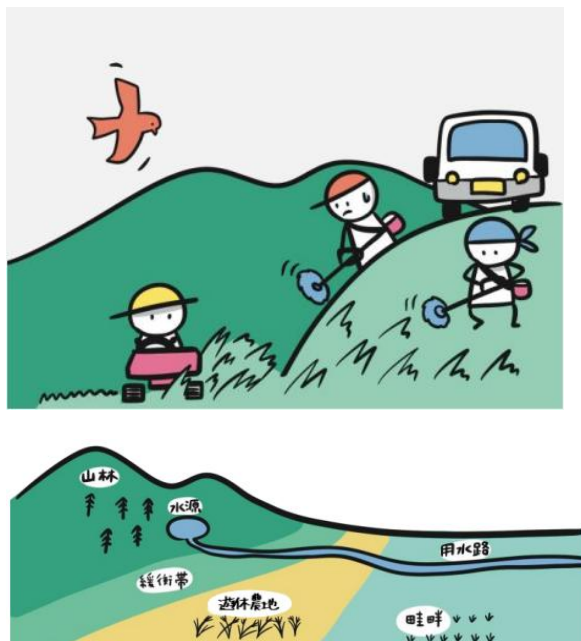


「農村RMO」という新たな組織を作る必要はありません。
どこで“農村地域づくり”をやっても良いですが
お財布の管理には注意が必要です。

- 農村RMOの活動は次の3本柱とされています。

農用地保全

農用地や農業用施設
などを適切に
保全・管理する活動



生活支援

地域住民の
生活に関する支援

移動支援



買物支援



子育て支援



高齢者支援



地域資源活用

有形無形の地域資源
を活かし収益を生み
出す活動

加工品



販売



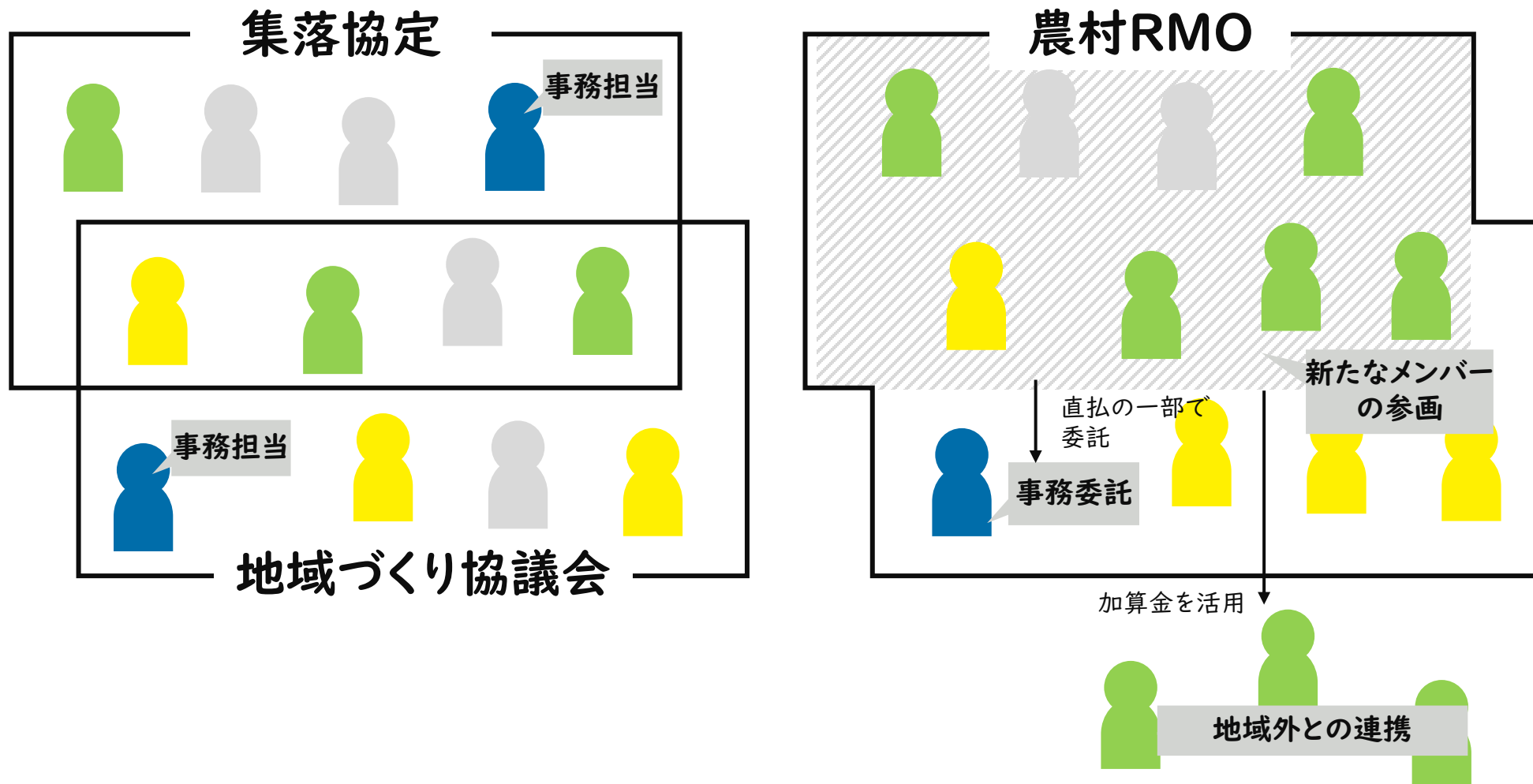
体験交流



イベント



- 既に地域内の団体が主体となっていて行っている活動も、農村RMOが支援することでより継続しやすくなる場合があります。





「こんなとき、どうする？」を一緒に考える

このあとすること

- 「こんなとき、どうする？」という質問をします。
- A/B (またはその他) を選び、その理由をグループ内で共有してください。
- どちらが正解というわけではありません。
「自分の地域だったら、こうしてみたほうが良さそうだな」と思うものをお選びください。

「農村RMO」というものがあるらしい・・・でも周りは・・・

あなたは、地域で農業の維持が難しくなっている現状を打破し、地域を盛り上げるためには「農村RMO」が必要だと考えています。でも、なかなか周りには伝わりません。

【A】

農村RMOについて、なるべくわかりやすく説明する

【B】

まずは、みんなの考えを聞いてみる

話を聞いてみた！ でも、暗い話ばかり・・・

「このままでは良くない」と感じている人は意外と多かった。しかし、悲観的な意見ばかりで前に進みそうにない……。

【A】

前向きな話をしてくれる人が見つかるまで探し続ける

【B】

ワークショップを開いて、色んな人の話を聞いてみよう

アイデアは出てきた・・・でも実現にはハードルが高そう・・・

手引きp.11

「地域の農産物や加工品を持ち寄ってマルシェを開いてみたい」
という人が2人現れた！
自分を入れて3人では盛り上がらないような気がするが……。

【A】

数人の仲間を集めて
ごく簡単にやってみる

【B】

補助金とかでなんとかでき
ないか、行政に相談してみる

やってみた！でも思い通りの結果にはならず・・・

手引きp.12

自分と仲間2人で小さく始めたマルシェは、やっぱり盛り上がらなかつた……。せっかく協力してくれた2人にも申し訳ない……。

【A】

今回はうまくいかなかったから、別のことにチャレンジしてみる

【B】

やり方を変えて、もう一度
チャレンジしてみる

ちょっとずつ成果が出てきた気がするけど、この後どうする？

手引きp.11

マルシェの出店者も買物客も、少しずつ増えてきた。
地域の人たちの反応も、徐々に前向きになってきたような
気がする。今ではマルシェの出店メンバーが7人に増えて
仲良くやっている。ところで農村RMOの話もあったような……。

【A】

地域のリーダー格の人と、
今後の展開を相談する

【B】

同じ仲間と、
次のことに挑戦する

地域の集会で説明させてもらいました。反応は上々！

手引きp.10

7人の思いはだいたい同じ。
でも他の住民はどう考えているんだろう……？

【A】

ワークショップや調査をやっ
て、住民の意見を広く集める

【B】

自分達の活動ビジョンをつく
り、地域の話し合いでOKを
もらう

ワークショップを開いてみたが、全然人が来ない！

ワークショップ／理事会では全然意見が出ず
散々な結果に……。さすがに7人の仲間たちも意気消沈……。

【A】

やっぱり無関心な人たちの
相手をしてムダかな……？

【B】

工夫次第で、なんとか意見
を聞き出せないものか……

活動をはじめてみたが、思ったよりも大変……

自分と仲間2人で小さく始めたマルシェは、やっぱり盛り上がらなかつた……。せっかく協力してくれた2人にも申し訳ない……。

【A】

思ったよりも大変だったから、
別のやり方を考えてみよう

【B】

せっかくの事業だから何とか
して続けなくては！

3年後、ホントに定着できるのか・・・？

農村RMOモデル形成支援事業を活用して
組織としての基盤が整備できたし、色々な実証ができた。
でも、交付金は来年度で切れてしまう……。

【A】

100%自力で稼がないとい
けないし、稼いだ分でやれる
ことをやる

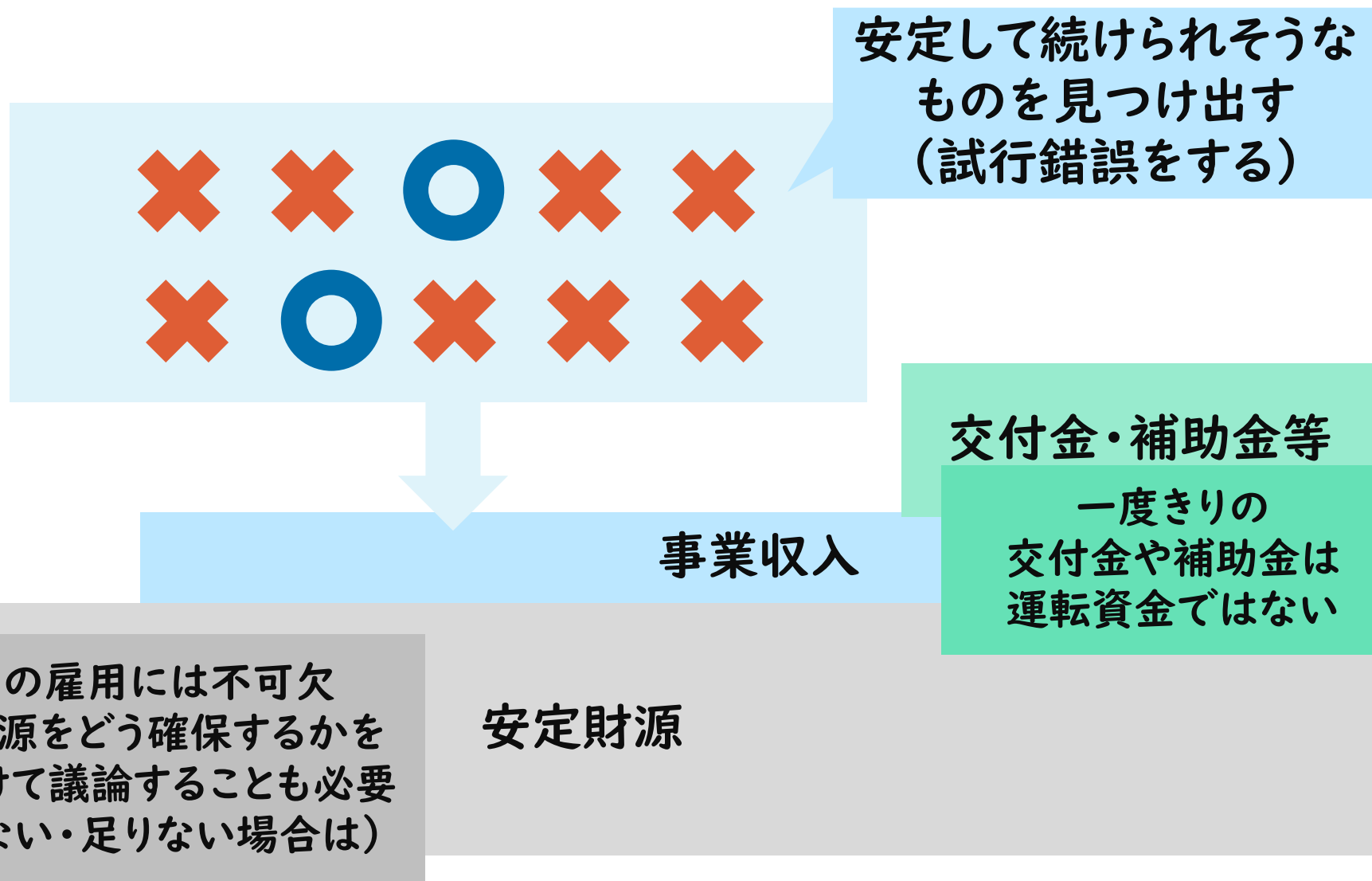
【B】

活動のベースをどの水準で
維持できるか整理してみる

A scenic view of a rural landscape. In the foreground, a small white truck is parked on a road. The middle ground features terraced rice fields with green crops, a small red-roofed building, and a large evergreen tree. The background shows a body of water and distant hills under a clear sky.

農村RMOでできることを考える

- 農村RMO形成支援事業では、3か年かけて「新規事業」を作り出していくことが求められます。
- 3年間の間で取り組んだこと全てを続ける必要はありませんが、続けられるものを見極める必要があります。



- 3年間の交付金は、ビジョン策定（※未策定の場合）と、「初期投資」を中心に活用します。

農村RMOモデル形成支援事業実施期間

定着期

事業の計画があることで、
必要な設備の導入（リース）や
調査・実証などを効果的にできる

事業収入を補填

ビジョンがあることで
「今後も続けていく意思」「地域での
必要性」等を行政に訴えかけられる

安定財源のあり方検討
（のための、調査・ビジョン策定）



持続的に
事業収入を得る

安定財源確保
→安定した運営

- 安定した収入が見込めるものは、協議会の運転資金（人件費・光熱費・賃料・・・）にあてられます。

直払交付金の一部

事務受託



自治体・国から

指定管理



会費・安定した売上

会費（住民・地域外）
寄付金（一口●円）



共同活動の一部



受託

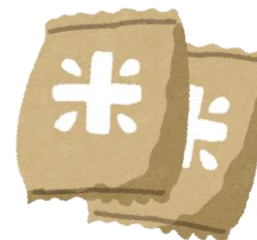


交付金



*資金だけでなく
人材の派遣も効果的です
（集落支援員等）

農産物の
直接販売



切手販売
（※届出が必要）



- 活動場所があることで、住民との接点を持ちやすくなります。
- 遊休施設の活用や、すでに使われている施設の機能強化の観点からも、地区で使えそうな拠点を農村RMOで使わせてもらえないか、行政や所有者・管理者に相談してみましょう。

農村RMOの
存在を認知される

住民（+地区外の人）
が集まり、交流する

活動に協力してもらう・
新たなアイデアが生まれる



活動場所確保の例

- 既に他の組織が使っている施設があれば、同じ場所に拠点を置くことで組織間の連携や住民とのコミュニケーションが期待できます。
- 地域の遊休施設を活用する場合は、所有者や行政と相談し、条件を協議しましょう。

農業倉庫を活用

釜ヶ淵みらい協議会（富山県立山町）

使われなくなっていた倉庫を、農協との協議により、改装することの了解を得て、使用する光熱費等の負担で借り受けることができました。改装は地域の工務店や住民の手で行いました。地域の手で飲食や地域の特産品の販売ができるよう改装し、地域内外の人が集まる拠点になっています。



写真提供：釜ヶ淵みらい協議会

既存福祉施設を活用

能登島地域づくり協議会（石川県七尾市）

地域の活動を行う団体の事務所がバラバラにありましたが、元々拠点であった旧町役場が老朽化により解体・移転することを契機として、コミュニティセンター（旧総合健康センター）に集約されました。

重複する事業はないか、協力し合って取り組めることはないかといった話し合いが自然と生まれ、広報誌やイベント等が一本化されました。

コミュニティセンターには住民も訪れるため、住民と地域運営組織のスタッフとのコミュニケーションも生まれています。



写真提供：能登島地域づくり協議会

収益事業を続けるために（加工品づくりの例）

- 市場ニーズと地域でできることが重なり、持続的に事業ができるものを形にするため、専門家による支援が効果的です。
- 市町村や伴走支援者などに専門家を紹介してもらいましょう。

原材料の確保



作りやすいもの



ニーズに応える



販路をつくる

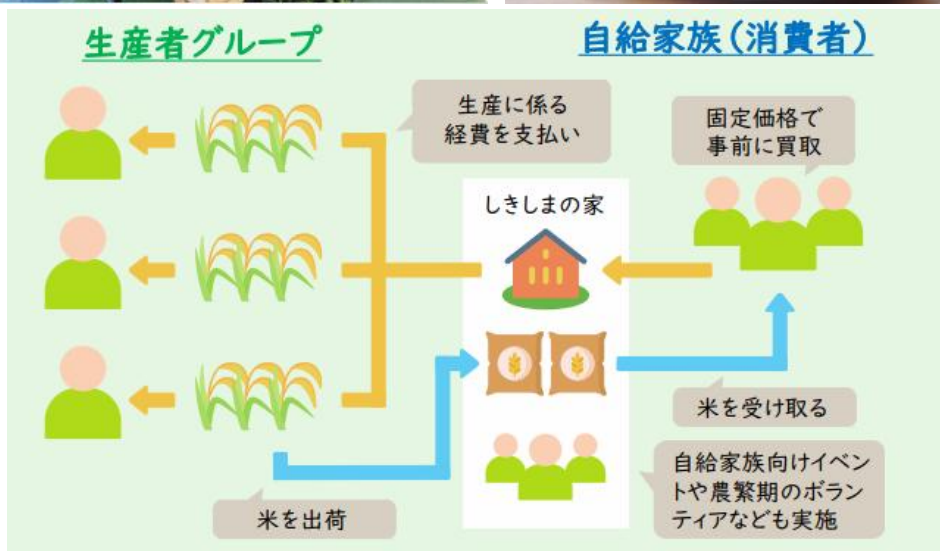


専門家に相談する（ために、伴走支援者に相談する）のが効果的

地域資源を活用した様々な事業の例

- 地域資源を活用した事業には様々なものがあります。
- 地域内や、販路がすでにあるところ（近隣の店舗）、関わりがある人たち（縁のある人や地域のファン）をターゲットにすると効果的です。また、事業活動を通して関係人口の創出も期待できます。

加工・販売



*しきしまの家運営協議会 (<https://shikishima.org/family>) 資料をもとに作成

体験・交流



写真提供: ①②鉦打ふるさとづくり協議会、③株式会社秋津野、④東米良1000年協議会

「農村RMO形成推進の手引き」のご紹介

- 令和6年度に「みんなでつくろう農村地域の未来」を制作し、農林水産省・JTBのHPで公開しています。
- ぜひご活用頂き、ご意見・ご感想をお寄せ下さい！

<構成>

- 1 立上期から定着期までのポイント
- 2 活動事例（プロセス事例）の紹介
- 3 地域づくりに関わる方が知っておきたいこと

<ポイント>

- 活動のプロセスを読み解き、課題への向き合い方の事例を提示
- 地域の具体的な取組を豊富に紹介
- リンク集により、支援施策等の情報も整理



ダウンロードはこちらから

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/nrmo/event.html>



立上期から定着期までのポイント

01

立上期から定着期までのポイント

形成期

4 活動をやってみる

- まずできることから、やってみます。
- 活動の内容に応じて、必要な人材を確保しましょう。
- 活動を続けながら、仲間を集めていきます。
- メディアやSNSなどで成果を見せることも、仲間集めにつながります。
- 専門家などの支援を得ることで、より効果的な活動につながります。

まずやってみる

数名で活動を企画します。なるべくお金と手間がかからないこと、すぐにできること、楽しく取り組みそうなものからやってみましょう。

Q 「やりたい人」の周りは何をしたらいですか？

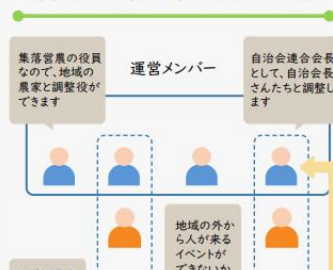
言い出しっぺに任せないのも大事

若い方がアイデアを持っても、なかなか賛同が得られない場合があります。組織の役員同士で説得し、応援ムードを作ることがプラスになります。

Q 「初めて」が失敗しないか心配です。

それはそれでいいから、まずはやってみよう

柔軟なチーム編成で、やりたい人を応援



各場面における課題等を乗り越えるためのヒントやポイントを以下の「解法（ヒント等）」、「留意点」、「ステップアップ」により紹介しています。

解法（ヒント等）

課題や悩みに対する
乗り越え方のヒント等

留意点

注意すべきことや、
失敗談に基づくポイント

ステップアップ

レベルアップのための
具体的な手法等を紹介

Q イベントに参加者を集めるにはどうしたらいいですか？

全戸配布+個別声掛け

地域の広報誌等にあわせて、イベントの案内を全戸に配布することが考えられます。チラシを配るだけでなく、お年寄りの見守りに合わせて声をかけるなど、個別の声掛けが特に効果的です。知り合いからの紹介によって、徐々に参加する人が増えてきています。

Q 一緒に取組を運営する仲間をどうやって集められますか？

「ちょっと手伝って！」は仲間集めのキーワード

地域の知り合いに「この日、イベントを手伝って！」と言うと、「この時間帯だけなら行くよ」「今日は空いてないけどまた今度ね」と、良い反応が得られる場合があります。会議に来てほしいというよりも、一緒に作り上げている実感があがり、自然体で関われるようです。



*逢川地区まちづくり協議会（富山県氷見市）

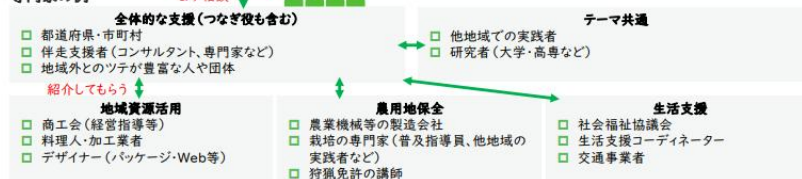
おしゃれなチラシで目を引く

専用のソフトがなくても、豊富なテンプレートとイラスト素材を組み合わせ、おしゃれなチラシやポスターをのれるWebサービスがありますので探してみましょう。

専門家などに助けてもらう

活動の効果を高めたり、最適な手順で進めるには、専門家に頼ることも検討しましょう。

専門家の例



振り返り、前向きに次へつなげる

活動しながら、予想通りだった点・予想よりもよかった点・よくなかった点などを振り返ります。反省点が多くても、やり方を変えてみる、予想自体を修正するなど、前向きに次につなげましょう。

Q あまりうまくいかなかった場合も、どうやって次につなげられますか？

その場で反省会

イベントの後に打ち上げをすると、自然と振り返りができます。「また来年も頑張ろう」という前向きな気持ちになります。

成果を「見せる」ことも意識する

成果が出はじめると、住民が徐々に活動に興味を示したり、好意的な反応になります。

- 新しいモノができた
- 人が集まってきた
- 生活が便利になった
- メディアなどに取り上げられた

Q どうしたら地域の人の賛同が得られますか？

取材されると風向きが変わる

はじめは静観する人が多くても、メディアに掲載されたことで「頑張っているね」「すごいね」と声をかけてもらえるようになります。

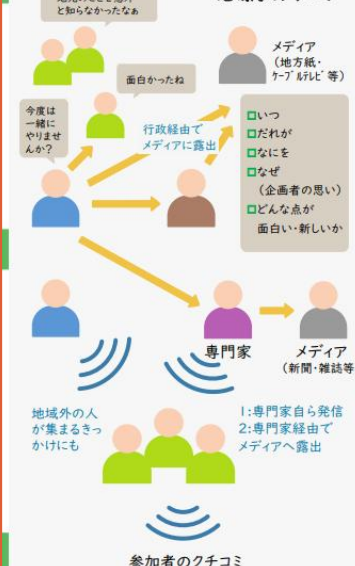
楽しむのが、続ける秘訣！

運営にかかわる人たちが楽しくやれることが、活動を続けていく秘訣です。みんながやりたいことを提案でき、実現できる状態を保ちましょう。

Q 無理して続けている活動をどうしたらいいでしょうか？

コロナ禍で途絶えていた盆踊りですが、準備が大きな割に踊る人が少ないので、やめてしまいましたが、むしろ、ステージの周りで踊らうことに意味があると考え、別のイベントを行いました。

地域内のクチコミ



図や写真で詳しく説明

SNSで発信してみよう

SNSでイベント等を案内することで、これまでよりも若い世代や、地域外からの参加が増える場合があります。活動に参加した人にフォロー・拡散してもらうなど、少しずつオンラインの仲間を増やしていきましょう。

プロセス事例編

- プロセス事例編では、農村RMO3地域を深掘って紹介しています。
- 活動の転機となったプロセスに着目し、地域内外の人がどのように動いたかを時系列でたどります。

地域の概要

[illegible]

キーパーソン インタビュー

●しましまの家運営協議会

地域のビジョン

豊かな自然、温かい地域のきずなを守り人々が生き生きと暮らす山里 しきしま

10年後の目指す姿

- ① 空き家、農地、山林が有効に活用され、多くのUターン者とともに人が持続可能暮らしが営まれている。
- ② 都市部の企業や市民にも支えられ、手入れされた田畑や山林、清流で日本の田舎を代表する風景になっている。
- ③ お年寄りも地域の担い手として元気で働き、子供たちが自然の中で生き生きと学び、遊んでいる。
- ④ 歴史や文化、伝統的な行事が受け継がれ、景観が盛大に保たれている。
- ⑤ 支払いを大切に、多分は多く使わずに安心して暮らせる社会意識や仕組みの整った地域になっている。

過疎化ストップにチャレンジ

しましまの宝を守る

安心して暮らせる地域をつくる

定住促進

環境保全

福祉健康

次世代育成

安心安全

分野別重点プロジェクト

- 1 支払い合意創出プロジェクト：子どもから高齢者までが支払い可能な定住力の創造
- 2 地域資源による農地保護プロジェクト：持続可能な食の未来を実現する高品質食の体制整備
- 3 未来への組織連携プロジェクト：社会変革に向けた関係機関、関係者、暮らしの改善

主な取組内容

- ・「自給家族」による売上
- ・農村RMOモデル形成支援
- ・豊田市のソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)*
- ・地域での新電力切り替えによる奨励金

農村RMO以外の施策活用

- 最速土地利用総合対策
- 中山間地域等直接支払交付金
- 多面的機能支払交付金

※SIB＝社会的な重要課題（ここでは住民生活の手延、農地では、地域の生産活動継続など）を解決する為の資金調達計算に基づき、活動費の支援を行っています。

キーパーソンインタビュー

しましまの家運営協議会 奥津木直氏

「しきしま暮らしの作法」では家を大切にしていますね。

山村の価値は「美しい農村風景」、その周りが荒廃していれば、住民の気持ちも持ちきれなくなってしまうのではないだろうか。そんな環境は移住者が閉居したいところではない。住民が「自分自身で暮らしている地域に誇りを抱いて」、また、「一度戻りたい農地に住み入り」戻らせよう。農地を保全すること、次世代に財産を残すことです。

景観や思いやり、多くの関係人を引き付けています。

2009年のプロダクト「地域づくりのための『書』」に、市町村から移住した若者が一冊一緒に取り組んでいる姿が目玉にしました。そして、今年まで続けていく中で、今さらながらの気づきになりました。「しきしまの家」は、手付いたという土地外からの人と、手付いたという土地内からのつながりによって成り立っています。最初は両面で交流がうまくいかなくて悩んでいました。但し、毎家の方向性がそろって暮らしてきているので、年間10件あまりの支払い合意・活動行動が行われています。例を合わせ、食事もしらる相談すること、住民は人に手伝ってもらっても低価格で暮らすこと、住民同士に集まった結婚相手の互いの心を通じあうことなど「自分で考えるべきことはないか」と手を助けたりします。

活動を続けることで、課題に感じることはありますか？

やはり若い世代に活発に取り組むことができています。これまで主力だったファミリー層が「高齢化が進んでいる」と感じています。若者は少ないですが、数十年前に地域に住んでいたといえる個人や団体に少しでも協力してもらいたいと思っています。年齢だけでなく、地域自治によって、「関係自治」が必要になると考えています。

若い世代への呼びかけなどはどの地域でも課題になっています。

加地区の高齢率は51%で、高齢者の3割は要支援または要介護者です。逆にさき7割は普通の生活ができる「アクティブエイジ」です。彼らが活躍することで、地域課題の相場の一部が解決される可能性があります。しかし、平均年齢は約60歳です。アクティブエイジが動く年代になる。ほんの一瞬のことだ、と知られますが、次の世代に地域に残るために一生懸命に取り組んでいる若者が少なくなっている。上の世代が「この地域はこれ」と誇れるのは、若い世代には受け継ぎにくいことになるでしょう。地域の方が見守っていてくるとともに、なぜならゲーム（就労して老人はいないという）、フットバンプなどで遊ぶのも方法を考えています。

ビジョン・
収入源・
活用している施策

● ししまの家運営協議会

形成期

定着期

定

「変
制の
ジョン

「住者
し
一
ダ、
話、
をいこ

「な
10年
り
ち
が話

「

「を改
入に取
て活動

「とて、
を望
る魅力

「し
しま
を基
とした
作法

「自給家族」と、地域まるっと中間管理方式

集落ごとの営農組織や農用地保全組織は、人口減少と高齢化を受けて活動の継続が懸念されていました。しかし、行政の広域連携のアドバイスで一歩を踏み出した。

「坪井営農組合が、専門家のアドバイスを受けて「地域まるっと中間管理方式」による農用地集積を図ったほか、独自のアイデアによる「自給家族」に取り組み、この成功を周辺集落に展開することになりました。

単独集落での取組に留めず、広域で連携することを実現しようと、話し合いが続けられてきました。

● 営農組織と農用地保全組織を一つの法人として、地域全体で事業を営む「取組」

参考https://richiophonki.or.jp/index/doc/index_archive04.pdf

農地まるっと中間管理方式を発案・普及している愛知農業振興基金の弓引理事長（当時）がアドバイザーを行いました。また、市町村が、集落協定の広域化や農村RMOモデル形成支援などのアドバイスをしました。

住民も自給家族も集まる「ししまの家」

関係人口との関わりが増えた一方で、地域では「子どもも園の駐車場が子育て世代の情報交換の場になっていった。う、なんだかかわいそうだ」といった意見が出ています。

ししまときめきプラン2020を策定する際の話し合いで、「地域のたまり場がほしい」という意見が出ました。関係人口の方の「慣れ」なからデザインを考えると、自分たちの手で作ったことと愛着が生まれそうです。さらに、お茶が飲める場所をいう意見から「営農がはじまり、地域のひとと来を受け取りに来た自給家族が交流できる」ようになりました。

豊田市旭支所が「わくわく事業」で、改修に伴う原材料（間伐材）などの購入を支援しました。外部からは、クラウドファンディングやDINなど、ししまの家の整備への協力を受けました。

目に見える地点ができて

住民同士・都市住民との交流が活発化

- 地域の中や外で話し合える場所ができたことで、女性や高齢者なども集まり、生活のことなどを話せる場が生まれました。
- 地域から来た訪客は「自給家族」を通して地域に関心を持つ方が多く、周りで知り合っているところを知りたいという思いから支援のマッチングにつながりました。
- 事務局スタッフがファ facilitator の運営を行っていることで、これらのマッチングや安心して話せる場づくりが実現しています。

関連施策の紹介・リンク集

- 農村RMOに関連する様々な省庁の支援施策・参考資料を紹介しています。
- 全国で作られた、農村RMOに役立つ資料のリンクも紹介しています。



農村RMOの情報・参考資料

農村型地域運営組織(農村RMO)の推進 農村RMOの形成を推進するための、全国の取組に関する情報・知見、支援制度などを情報発信。 https://www.maff.go.jp/j/nousin/nrmo/index.html	農林水産省
農村型地域運営組織(農村RMO)形成の手引き(2023年) 農村RMOの活動のステップや事例集、移住者の声などを紹介。新たな人材活用のヒントも掲載。 https://www.maff.go.jp/hokuriku/nouson/230420.html	北陸農政局
いわて農村RMOヒントブック(2024年) 岩手県における農村RMOの伴走支援の成果をもとに、農村RMOモデル形成推進事業活用のヒントを紹介。 http://www.iwa-c-net/iwate.RMO/images/iwatermo202411.pdf	岩手県・NPO法人いわて地域づくり支援センター
農村RMO立ち上げマニュアル(2025年) 農村RMO形成の進め方や、運営のポイント、熊本県における農村RMOの活動事例等を紹介。 https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/life/233899_688677_misc.pdf	熊本県
地域の話し合い活動の手引き～農村型地域運営組織(農村RMO)のすすめ～(2025年) 農村RMO事業を想定した話し合いの進め方や、活動のポイントを紹介。県内外の事例や支援施策、実際に使われたアンケートの様式なども掲載。 https://www.pref.kagoshima.jp/ag02/documents/120161_20250324093421-1.pdf	鹿児島県

地域づくりの参考資料

小さな集落活性化事業ハンドブック～「ゼロ」からスタートする地域づくりのノウハウ～(2024年) 市町村と集落をつなぐコーディネーターの役割に着目し、3年間の支援事業におけるポイントを県内各地の事例をもとに深掘り。Q&Aなどを通して、地域づくりのヒントを紹介。 https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024032900266/file_contents/file_20243295151722_1.pdf	高知県
新しい地域経営のステージへ～「地域経営会社」の設立事例集～(2023年) 住民を主人公として、地域社会が全体として安定、進化、持続していくことを目指す「地域経営会社」の設立事例などを紹介。 https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/30/208375.html	山口県
地域コミュニティ組織の設立・運営にかかるガイドブック(2021年) 新たに地域運営組織を作ったり、活動を始めていくプロセス、支援のポイントなどを「市町村職員向け」と「地域住民向け」の2つに分けて紹介。 https://www.pref.oita.jp/site/shokibosyurakutaisaku/network-guidebook.html	大分県
【市町村の支援者向け】地域づくり支援ハンドブックvol.2(2024年) 介護予防・日常生活支援総合事業等に関する、市町村の支援者向けのハンドブックで、よく出る質問などを題材に、解説や対話例などが整理。 https://www.jmar.co.jp/2024/05/15/lgr5_10_handbook_supporter.pdf	(株)日本能率協会総合研究所
高齢者などの「移動」支援 地域において高齢者等の移動支援・送迎を行う際のノウハウや事例を紹介。ガイドラインの解説、事例紹介、研修等の内容を動画でも紹介。 https://www.murc.jp/houkatsu_08/	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)